

菊川茶の未来を切り開く



株式会社マース 代表取締役
福島 寛孝さん(五丁目下)



1_高層ビルの7階にある「バレエ・インターナショナル」が経営する台湾のカフェ 2_台湾のカフェで開催されている親子料理教室 3_福島さんが輸出する「Royal Emerald Tea®」を使用したお茶とSoy茶Latte

静岡県の食文化の創造や人材育成に貢献した企業や個人・団体に贈られる「ふじのくに食の都づくり貢献賞」を受賞し、平成28年11月30日に表彰された株式会社マースの福島寛孝さん。菊川茶を使った粉末茶のブランド化やユニークな販売方法を取り入れるなど、前例に捉われないさまざまな挑戦をしてきたことが認められました。

大学を卒業後、外資系の会社に就職していた福島さんは、東日本大震災の影響で茶業が大打撃を受けている状況を目の当たりにします。その後、茶業の復興に貢献したいという強い思いから、平成23年に菊川市に同社を設立。新規参入の市場で勝ち抜き手段として、「粉末茶」に目を付けました。「日本では、粉末茶は安価で低品質というイメージがあります。その先入観がない地域で高品質な商品を提供すれば、これまでイメージを変えることができると思いました」とその理由を話します。

そして、商品開発と同時に取り組んだのが、海外販路の開拓です。「あくセスの良さ」「親日的である」「お茶文化が根付いている」という3つの要素が揃っていることから最初の候補地として台湾を選びました。しかし、輸出に取り掛かろうとした時に、課題が浮き彫りになりました。周りに輸出経験の豊富な人がおらず、情報を手手することが非常に困難だったのです。こ

こで役に立ったのが、これまで培ってきた人脈です。日本よりも高く、世界でも厳しい水準である台湾の残留農薬規制基準やお茶の好みなどの情報は、台湾行政院に勤めている大学時代の台湾人の友人から得ました。

さらに、その友人を通して、現在、パートナーを組む蔡振田さんと出会いました。蔡さんは、台湾で優れた業績を収めた上位10社に贈られる「金峰奨」を受賞したカフェ「バレエ・インターナショナル」の経営者。このカフェで福島さんが輸出している粉末茶を販売したり、粉末茶を使用したスイーツを提供したりすることで、台湾での販路を開拓しました。また、福島さんは、緑茶の文化を根付かせようと、現地で粉末茶を使用した親子料理教室を開催しています。「現地の方に使い方や味を覚えてもらい、小さい頃から慣れ親しむことで菊川粉末茶のファンを育成し、生活の一部として浸透させることが重要」と商品販売の継続性を確保するための戦略を話します。

「一過性のブームで終わることなく、世代や文化、風習の垣根を越えて、菊川茶が多くの人に長く愛されることを目指し、品質の向上や販路の拡大、お茶文化の浸透にさらに力を入れていきます」と今後の展開を話す福島さん。菊川茶の明るい未来を切り開くための挑戦が続きます。